

# 愛犬の爪の切り方とは？爪切りのおすすめの頻度や切り方のコツ・犬が嫌がる・暴れる場合の対処法などをご紹介します

今回は、愛犬の爪の切り方や頻度、猫と犬の爪の違い、嫌がられないおすすめの方法や爪切りのコツ、失敗してしまったときの対処方法などを詳しくお伝えしていきます。



## 犬は猫と違って爪研ぎをしないので、爪切りが必要



犬は猫と違って、爪研ぎはしません。散歩をよくする犬の場合は、爪が地面に当たって削れるため、多少は伸びる速度が遅くなります。ただし、散歩でよく歩くからといって、すべての爪が均等に削れるわけではありません。また、狼爪(ろうそう)と呼ばれる地面に接しない5本目の爪は、散歩をしていても削れないため、4本の爪に加えて、定期的な爪切りによるケアが必要です。

## 犬の爪切りはギロチンタイプがおすすめ

犬の爪切りには、ハサミタイプとギロチンタイプの2種類が主にありますが、ギロチンタイプがおすすめです。先端についている丸い穴に爪を通して切ることができるため、ハサミタイプと違って安定感があります。初心者でも切る位置を間違えにくいので、おすすめです。

## 小さく角を落とすようにして切る

犬の爪の深部には、神経が通っている部位があり、血管も通っています。そのため、間違っただけでその部分を切ってしまうことがあると、犬が痛みを感じて、以後の爪切りを嫌がってしまいます。そのようなことが起こらないように、最初は小さく角を落とすようにして、少しずつ爪切りを行うようにするのが良いでしょう。

## 犬の爪切りの頻度は月に1～2回程度

犬の爪切りの頻度については、月に1～2回程度が理想的です。犬の種類、歩き方、散歩の頻度などによっても爪の伸びるスピードは変わりますので、愛犬の爪の伸び方を確認しながら、適切な時期を見定めましょう。爪が伸びてしまうと、爪の中の神経や血管が入っている部分も伸びてしまいます。できる限り、伸びすぎないうちに爪切りを行うようにしてください。

## 犬の爪切りで嫌がられないおすすめの手順・切り方のコツ



### ①愛犬が暴れないように保定する

犬の爪切りをなるべく嫌がられないようにするコツとして、保定を行う方法が挙げられます。保定とは、犬が暴れたり、嫌がったりしないように、安定した状態で抱きかかえることを意味しています。一人で犬の爪切りを行うのが難しい場合は、家族や友人などに手伝ってもらい、保定してもらうようにすると良いでしょう。

### ②はじめは1本ずつ、なるべく手早く行う

爪切りを初めて行う場合は、あらかじめ爪切り道具の匂いを嗅がせて、愛犬が落ち着くまで気長に待ち、初日は1本分の爪を切れば成功だと考え、手早く終わらせましょう。もしも嫌がったら、無理に行おうとしないのもポイントです。

### ③しっかりと毛を押さえて爪を出す

毛の長い犬種の場合は、手足の部分にも毛が被さり、爪が見えにくいことがあります。そのため、しっかりと毛を後ろ側に押さえて、爪を出してから切るようにしましょう。爪切りに毛が引っかかる感触を不快に感じて、暴れたり、嫌がったりする犬もいますので、注意が必要です。

### ④仕上げはできる限り滑らかに

爪を切った後に切りっぱなしにしまうと、角が鋭い状態になっている場合があるため、犬が体を掻くときに皮膚を傷つけてしまう可能性があります。また、飼い主やご家族などが引っ掻かれたときに怪我をするリスクもあるので、爪やすりを使って滑らかにする作業を忘れないようにしましょう。

## 犬の爪切りを失敗したときの対処方法



万が一、爪切りに失敗して血が出てきてしまった場合は、コットンやガーゼでしばらく押さえて圧迫止血を行うことで、比較的早く止血することができます。血が出てしまったから慌てないように、爪切りをするときには、事前に清潔なコットンやガーゼを手元に置いておくと安心でしょう。動物病院では、止血剤を分けてもらうことができる場合もあるので、合わせて用意しておくより安全です。

ノミ・マダニに関する最新情報をチェック!

☑ LINE 公式サイト LINE@友達募集中 →

